

「新聞の漢字」

二〇〇二年十月二十五日（金）午後三時～五時
朝日新聞大阪本社二階 アサコム・サブホール

わたしたちが毎日読んでいる新聞、何気なくみているテレビ放送の字幕には、さまざまな種類の漢字が、いろいろな様子が使われています。

たいいてい人は漢字を小学校から習い始めますが、社会人になっても辞書をひいたり、人に教えられたりすることも多いでしょう。さらに年配の方でも、漢字で苦勞したり、迷ったりすることがあるかもしれません。

生涯を通して私たちの生活に欠かせない「漢字」の世界を、日常の社会生活や、学校教育で取り上げられる漢字の範囲や、基準を示した「漢字表」と、新聞や報道に使われる「漢字表」とに注目して、漢字にまつわる問題について考えてみましょう。

〔三時〕

開会

ごあいさつ

〔三時〇五分〕

漢字表ってなんだ？

おぐら ひでき
小 椋 秀 樹

協力：朝日新聞大阪本社編集部校閲部次長 おおほり いずみ 大堀 泉氏

〔三時三五分〕

新聞の漢字を調べる

きはら ひろゆき
笹原 宏之

〔四時〇五分〕

休憩

〔四時二〇分〕

漢字の質問あれこれ

やまだ さだお
山田 貞雄

協力：読売テレビアナウンサー なほうとしひこ 道浦俊彦氏

- ※御用の方は、係の者までお願いします。黄緑色の名札をつけています。
- ※手話の見える位置は限られていますので、席を譲り合ってお使いください。
- ※国立国語研究所の刊行物を展示しています。どうぞご覧ください。
- ※洗面所は、会場の外、エレベーターホール横にあります。

漢字表ってなんだ？

独立行政法人国立国語研究所 小椋 秀樹

協力 朝日新聞大阪本社
編集局校閲部次長 大堀 泉氏

一 漢字の使用に関する問題

現代の国語は漢字かなまじり文で書くのがふつうです。それは、現代の国語の表記では漢字を使うということが前提となっているということでもあります。そのため、文章などを書くときに次のようなことが問題となることがあります。

- ・ ある語を漢字で書くかどうか。
- ・ 漢字で書くとしてもどの範囲の漢字を使うか。

【例】同じカード会社から送られてきた手紙の冒頭

- (A) 拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
(B) 拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます

新聞を読んでいると、「あつせん」のようなひらがな書きの漢語、「だいご味」のような漢字・ひらがなのまぜがきになっている漢語を目にすることがあります。また新聞に使われている漢字には、ふつう読みがなはふられていませんが、なかには「^{はら}遙かに」「^{はら}殆ど」のような読みがな付きの漢字が使われていることもあります。

新聞の記事を書く際にも「ある語を漢字で書くかどうか」といったことなどが問題となることがあるようです。

二 漢字表とは

漢字表 …… ある目的のために、使用する漢字の目安(もしくは基準)を作ったり、学習すべき漢字の範囲を定めたりすることがあります。漢字使用の目安・基準として定められた漢字、学習すべきものとして定められた漢字を字体・音訓などとともに一覧表にして示したものを「漢字表」と呼びます。

漢字表には、たとえば次のようなものがあります。

- 【例】 常用漢字表(常用漢字) 人名用漢字別表(人名漢字)
学年別漢字配当表(教育漢字)

三 国が定めた漢字表

戦前には、多くの漢字を使うことは教育や文字生活上の負担になるというたちばかり、使用する漢字を制限しようとして、漢字表の案が作られました。しかし強い反対があり、実施されるにはいたりませんでした。

戦後、昭和二十一年に「法令・公用文書・新聞・雑誌および一般社会で、使用する漢字の範囲を示したもの」として「当用漢字表」（一八五〇字）が作られ、告示されました。

三・一 「常用漢字表」

「常用漢字表」は昭和五六年一〇月に内閣告示されました。

「当用漢字表」（一八五〇字）に九五字を加えた一九四五字からなる漢字表で、それらの漢字の字体や音訓が示されています。

(一) 「常用漢字表」の性格・目的

「常用漢字表」前文 「常用漢字表の性格」

常用漢字表は、法令・公用文書・新聞・雑誌・放送等、一般の社会生活で用いる場合、効率的で共通性の高い漢字を収め、分かりやすく通じやすい文章を書き表すための漢字使用の目安となることを目指した。

(文化庁『国語審議会報告書』一四〈昭和五七年〉・144p)

「常用漢字表・前書き」

- 1 この表は、法令、公用文書、新聞、雑誌、放送など、一般の社会生活において、現代の国語を書き表す場合の漢字使用の目安を示すものである。
- 2 この表は、科学、技術、芸術その他の各種専門分野や個々人の表記にまで及ぼそうとするものではない。
- 3 この表は、固有名詞を対象とするものではない。
- 4 この表は、過去の著作や文書における漢字使用を否定するものではない。
- 5 この表の運用に当たっては、個々の事情に応じて適切な考慮を加える余地のあるものである。

(『常用漢字表・現代仮名遣い・外来語の表記』・3p)

(二) 「常用漢字表」の構成

「常用漢字表」は「本表」と「付表」とから構成されています。「本表」には常用漢字として定められた一九四五字の字体・音訓・語例などが示されています。「付表」には、あて字や熟字訓などが示されています。

三・二 漢字使用に対するひとびとの意識と「常用漢字表」

「常用漢字表」を厳密に守ると、かながきにしなければならない漢語やまぜがきにしなければならない漢語が出てきます。しかしこのような表記、とくに漢語のまぜがきについては読みにくいという意見があります。

(一) 文化庁国語課『国語に関する世論調査(平成7年4月調査)』(平成七年)

質問 Aは「常用漢字表」に入っていない難しい漢字は使わないようにして、漢字と仮名を交ぜて書いたもの、Bは漢字で書いて振り仮名をつけたものです。あなたは、どちらがよいと思いますか。

A	B
真相を知つてがく然とした	真相を知つて愕然とした
花模様の刺しゅう	花模様の刺繍
動物のはく製	動物の剥製
経営が破たんする	経営が破綻する

四 新聞漢字表

新聞の紙面には、最初に触れられたように、漢字はあるが、わざとかな書きにしているものや、熟語なのに漢字とひらがなが交ざっているもの、漢字に読み仮名を付けているものが見られます。このようないろいろな漢字の使い方があるのは、新聞各社もまた、それぞれ使う漢字の範囲を決めて、そのルールに従って表記しているからです。

常用漢字表は、一般の生活の中で使う漢字の目安として、作られたものですが、実際には、それに入っていない漢字(表外字と呼んでいます)もよく見かけます。新聞も常用漢字表を「目安」にしてきましたが、実際に読者に分かりやすい書き方を求めて、各新聞社が漢字表を作っています。そのために多くの新聞社が、漢字表をはじめとして、字体やかな遣いなどを検討し、基準を決める部署を設けています。

新聞各社が加盟している日本新聞協会では、用語懇談会が常用漢字表を基本にして、新聞全体で使える漢字の基準を作っており、各新聞社はそれを踏まえて、独自の工夫を盛り込んだ漢字表をつくっています。記者はその漢字表に従って記事を書きます。

各社の漢字表は、その新聞社が「わかりやすさ」と「読者」をどのように考えるかによつて、少しずつ違っているわけです。

各社とも、漢字表にない「難しい漢字」については、ある人の発言の内容など、どうしてもその字を使わないと表現できないときは、表外字を使つて読みがなを付けるようにしてきましたが、記者が書く地の文ではなるべく表外字を使わない表現を工夫するように努力しています。表外字を含んだ言葉を、交ぜ書きにしたり、ひらがなにしたりしても、読みやすくなるには限らないからです。

四・一 新聞漢字表の一例として——朝日新聞のケース

常用漢字表以降の朝日新聞の漢字表の流れを追ってみると次のようになります。

一九八一年（昭和五十六年）に常用漢字表ができたとき、新聞協会用語懇談会はそこから十一字を除き、六字を追加した。朝日新聞もこれに従った。

削除したもの|| 謁 虞 且 箇 遵 但 脹 朕 附 又 濫

追加したもの|| 龜 絃 痕 控 哨 狙

常用漢字表は千九百四十五字で、そこから十一字を引き六字を加えたから千九百四十四字が新聞の漢字表に入った。除いた十一字は昭和二十九年三月の国語審議会が「当用漢字補正案」を報告したとき、削除すべき字としたものの中に含まれていた。

一九八九年（平成元年）に、朝日新聞は独自に五字を追加した。

追加したもの|| 冤 腫 腎 豎 拉

二〇〇一年（平成十三年）に、新聞協会は三十九字を追加した。

追加したもの|| 關 鍋 牙 瓦 鶴 玩 磯 臼 脇 錦 駒 詣 拳

鍵 虎 虹 尻 柿 餌 腫 袖 腎 須 誰 腺 曾

耐 枕 賭 腫 頓 井 汎 斑 釜 謎 妖 嵐 呂

（この中の腫と腎は、朝日新聞ではすでに追加済み）

二〇〇二年（平成十四年）に、新聞協会決定関連として八字追加。

追加したもの|| 旺 斬 獅 捉 奈 峰 蜜 侶

※ 読みがななしで、熟語に使うとしたもの

同時に朝日新聞独自で二十一字を追加。

追加したもの|| 熊 呪 栗 芯 岡 疹 冥 餅 梨 股 蘇 笠 頃

鎌 采 眉 辻 藤 串 鹿 扮

従って現在、朝日新聞の漢字表には二千十一字が入っている。

今回の漢字表の改訂（朝日新聞では二〇〇二年の春）の時のいきさつは次のようになりました。

まず、今回の改訂では新聞協会も三年ほどかけて検討し、二〇〇一年にかなりの字数を追加しています。

朝日新聞では、一九九八年（平成十年）に、読みがなを付けるとき、語の後に丸かっこを付けて読み方を示す方式をやめ、字の横にふりがなの形でつけることにしました（いわゆるルビを紙面で使えるようになった）。ルビを付けて使える字を、専門用語や引用などに制限し、一般的な名詞で表外字を使った熟語などは、ルビを使う対象にしませんでした。この時には、多数の読者が読めそうな漢字について、ルビなしで使えるよう、漢字表の拡大も検討しましたが、朝日新聞だけの拡大とせず、日本新聞協会に対し、漢字表の再検討を要望しました。その後、二〇〇一年に新聞協会が三十九字を追加、さらに朝日新聞は独自に二十一字を追加して、二〇〇二年の漢字表ができました。

朝日新聞が独自に追加した二十一字について、三月十四日付特集面は、「人名や地名でよく出てくるからなじんでいる」「大学生を対象にテストしてみたが、おおむね好成績だった」としています。

今回の漢字表改訂で、紙面に熟語の「交ぜ書き」が減り、それについては、読者からの不満の声も減ったようです。

また、他社の動向ですが、紙面で見ると、毎日新聞が、「毎日新聞用語集」をこの春に改訂し、九九年五月から読みがな付きで先取りして使っていた表外字を、読みがななしで使えるようにしています。読売新聞は新聞協会の三十九字追加を受けて、二〇〇二年二月から使っています。産経新聞は同じく協会の追加を受けて、早くも二〇〇一年十二月から使用、共同通信が二〇〇二年三月に三十九字を追加したのに合わせて、京都新聞、神戸新聞、中国新聞など地方紙も同様の漢字表を使っています。

このように、読みやすく、自然な表記を求めて、新聞社も漢字表にそれぞれ、工夫を積み重ねています。

五 まとめ

○ ある目的のために、使用する漢字の目安（もしくは基準）を作ったり、学習すべき漢字の範囲を定めたりすることがあります。漢字使用の目安・基準として、学習すべきものとして定められた漢字を一覧表にして示したものを「漢字表」と呼びます。

○ 国が定めた漢字表には「常用漢字表」があります。「常用漢字表」は、一般の社会生活において分かりやすく通じやすい文章を書くための漢字使用の目安として作られたものです。

○ 新聞の漢字表記は、新聞各社が定めた漢字表にしたがっています。

新聞の漢字表は、読みやすい記事を書くために作られているものです。漢字の選定にあたっては、「常用漢字表」を基礎としつつも、日本新聞協会や新聞各社の判断によつて、「常用漢字表」にあげられた漢字であっても削除したり、「常用漢字表」にない漢字であっても追加したりしています。

「国語に関する世論調査」の回答

Aのほうがよい	三五・二%	Bのほうがよい	五七・一%
どちらとも言えない	五・八%	分からない	一・九%

本 表

ア-イ

漢 字	音 訓	例	備 考
亞 (亞)	ア	亜流, 亜麻, 亜熱帯	
哀	アイ あわれ あわれむ	哀愁, 哀願, 悲哀 哀れ, 哀れな話, 哀れがる 哀れむ, 哀れみ	
愛	アイ	愛情, 愛読, 恋愛	
惡 (惡)	アク オ	惡事, 惡意, 醜惡 惡寒, 好惡, 憎惡 悪い, 悪さ, 悪者	
握	アク にぎる	握手, 握力, 拳握 握る, 握り, 一握り	
圧 (壓)	アツ	圧力, 圧迫, 気圧	
扱	あつかう	扱い, 扱い, 客扱い	
安	アン やすい	安全, 安価, 不安 安い, 安らかだ	
案	アン	案文, 案内, 新案	
暗	アン くらい	暗示, 暗愚, 明暗 暗い, 暗がり	
以	イ	以上, 以内, 以後	
衣	イ	衣服, 衣食住, 作業衣	浴衣(ゆかた)
位	ころも イ	衣, 羽衣 位階, 第一位, 各位	「三位一体」, 「従三位」は, 「サンミイッタイ」, 「ジュエサ ンミ」。
囲 (圍)	くらい イ かこむ かこう	位取り, 位する 囲碁, 包囲, 範圍 囲む, 囲み 囲う, 囲い	

常 用 漢 字 表

前 書 き

- 1 この表は、法令、公用文書、新聞、雑誌、放送など、一般の社会生活において、現代の国語を
書き表す場合の漢字使用の目安を示すものである。
- 2 この表は、科学、技術、芸術その他の各種専門分野や個々人の表記にまで及びそうとするもの
ではない。
- 3 この表は、固有名詞を対象とするものではない。
- 4 この表は、過去の著作や文書における漢字使用を否定するものではない。
- 5 この表の運用に当たっては、個々の事情に応じて適切な考慮を加える余地のあるものである。

付 表

あす	明日	きょう	今日
あずき	小豆	くだもの	果物
あま	海女	くろうと	女人
いおり	硫黄	けさ	今朝
いくじ	意気地	けしき	景色
いちげんこじ	一言居士	こころ	心地
いなか	田舎	ことし	今年
いぶき	息吹	さおとめ	早乙女
うなばら	海原	ざこ	雑魚
うば	乳母	ざじき	棧敷
うわき	浮気	さしつかえる	差し支える
うわつく	浮つく	さつきばれ	五月晴れ
えがお	笑顔	さなえ	早苗
おかあさん	お母さん	さみだれ	五月雨
おじ	{叔父 {伯父	しぐれ	時雨
おとうさん	お父さん	しない	竹刀
おとな	大人	しばふ	芝生
おとめ	乙女	しみず	清水
おば	{叔母 {伯母	しまみせん	三味線

新聞の漢字を調べる

独立行政法人国立国語研究所 笹原宏之

1. はじめに

私たちは、毎日、新聞で多くの情報を目にしています。日本中でほぼ毎日、5000万部以上発行され（「新聞広告データアーカイブ」による）、その紙面は数多くの漢字で埋められています。それらの一部は、近年、インターネット上でも記事が配信されるようになってきました。

新聞報道への信頼度は一般的に高いとされることと関連するのでしょうか、紙面に使われている漢字を、自分が漢字を書く際の基準にしている人もいるようです。また、新聞を読んでいる人は、意識しなくても自然に使われている漢字を覚えることがあるでしょう。

そのような影響力をもった新聞の漢字は、どのくらいの種類が使われていて、またどのような新聞らしい特徴を持っているのでしょうか。新聞の漢字に対する調査研究を取り上げながら、新聞の漢字の実態を探り、その特徴を明らかにしていきましょう。

2. 新聞に対する漢字の頻度調査

新聞に使われている漢字については、カナモジカイから「新聞ノ漢字使用度数シラベ」が出されているように戦前から注目されていて、毎日新聞社の活字頻度調査のように自社による調査も行われてきました。NTTも、朝日新聞データ14年分に基づく漢字頻度表を公刊していますが、紙面照合を経ていないため、JIS規格で置き換えがあった漢字のねじれや外字についての集計はなされていません。また、日本新聞協会では、地方紙を含めた新聞の表外漢字の印刷システム上での字体（字の形）について調査を行いました。

一方、国立国語研究所においては、現代日本でどれくらいの漢字が使われているのかという実態を把握するために、統計学的手法を用いた計量言語学に基づき、客観的な立場から、新聞に対する漢字調査を行ってきました。

①『現代新聞の漢字』

1966年1月1日～12月31日の全国一般紙『朝日新聞』『毎日新聞』『読売新聞』の三紙各東京本社版朝夕刊（日曜特別版は除く）の原則として最終版の紙面（欄内）から、抽出比1/60のランダムサンプリング方式によって調査対象とする紙面を抽出し、そこに現れた漢字から案内広告・ラジオ・テレビ番組表・株式相場表・その他の表に現れたものを除いた漢字99万余りをコンピューターを用いて調査したものです。商業広告に現れた漢字は含みません。

②『新聞電子メディアの漢字』

『朝日新聞』のCD-ROM「CD-HYASK」（1993年1月1日～12月31日 地方版を含む最終版）から、本文のデータを取り出し、同一記事の重複を削除し、CD-ROMで「ニ」や「」という記号で表現されているJIS外字や、事故が起こりやすいJIS入れ替え文字についてすべて紙面照合を行い、紙面に近づけた延べ5462万余字を全数調査したものです。

区点	漢字	紙面順位	紙面頻度	CD順位	CD頻度	属性	異旧
25-78	克	1,143	1,717	1,185	2,222	常	
25-79	刻	898	3,124	861	5,131	常6	
25-80	告	237	19,190	205	31,426	常4	
25-81	国	3	167,782	9	212,124	常2	新
25-82	穀	1,719	377	1,731	548	常6	
25-83	酷	1,688	400	1,731	548	常	
25-84	鵠	2,448	32	2,591	34		
25-85	黒	599	6,412	642	8,543	常2	

また、文化庁文化部国語課では、当時の第22期国語審議会でも常用漢字表外字の字体に関する審議の資料とするため、次の調査を行いました。

③『漢字出現頻度数調査(2)』

読売新聞社内の1999年7月1日から8月31日の東京本社と中部本社管内の最終版（朝夕刊）のデータから漢字2531万字余りを集計し、漢字字体の種類と頻度を示すものです。

この調査は、見出しを含む紙面全体に及んでいて、署名記事をも含みますが、テレビ・ラジオ面・広告面は含んでいませんから、そこに出現した文字は、頻度数に加えられていません。

そのほか、頻度表から漏れた字が見つかります。それは、調査対象となった紙面に実際に存在しているものでも、「臨時文字」とよばれる長期保存されない外字です。下に実際の期間中の紙面の例を挙げます。このような例は25字以上確認できます。

平勢ひらせ

いと歌うたの歌は、弓の名手・羿ひ
月の神が持つ若返りの水がほし

源頼朝みなもとのよりとも拳兵を題材にした
長編浄瑠璃「三浦大助紅梅なつめ」の三段目。六郎太

3、意外と特徴のある新聞の漢字

3、1 字種（漢字の種類）

多くの新聞では、本文は縦組みを原則とし、大きな見出しの文字のほか、小さめの文字が扁平（へんぺい）活字で印刷されています。それらの中で、漢字は40%程度を占めていて（文献④）、雑誌や小説に比べ、今なお漢字が多く使われています。ところが、そこに使われている漢字は、一年間で4476種に収まっていて（1993年朝日）、実はかなり整理されたものとなっています。「竜」と「龍」を1字と数えるか2字と数えるかといった細かい基準に差がありますが、1966年三紙で3213種、1999年読売で4536種（重複を除く）となっています。種類が調査ごとに違うのは、主に調査対象の規模が違うために、頻度の低い字に出入りがあるためです。

新聞各社は、紙面で使用する漢字に関してそれぞれ方針を定めていて、『新聞用語集』のたぐいに方針が示されています。社によって細かい点は異なりますが、大きな傾向は次のようになっています。

・常用漢字にある漢字（表内字）を使う

これは「常用漢字表」の前書きに従った態度です。以下も、それに準じるものと考えられます。

・表内字であっても使わないものもある

附属 → 付属 遵法 → 順法

・表外字でも使うものもある

狙 亀（裂） 腺 鍋

・固有名詞や専門用語などでは表外字も使う

藤 岡 阪 韓 伊 鹿 奈 彦 埼 茨 菱 疽

3、2 使用頻度

新聞では、どのような漢字がよく使われているのでしょうか。頻度の高い漢字の上位10位（ベストテン）を、調査対象・方法にも差がありますが、先ほどの各調査から挙げてみましょう。いずれも互いによく似た傾向を示しています。

順位	66三紙	93朝日	99読売
1	日	日	日
2	一	一	一
3	十	国	大
4	二	十	年
5	大	大	人
6	人	会	十
7	三	人	会
8	会	年	二
9	国	二	中
10	年	本	市

日時などの数字、固有名詞、新聞に頻出する用語、政治関係の用語などが反映していると考えられます。上位の漢字は、順位があまり動きませんが、全体を見ると、1966年三紙で1983位だった「狙」は、1993年朝日では808位、1999年読売では790位と1200位近くも順位を上げています。これは、新聞協会が追加したことが要因となっているようです。

上位500種の漢字で、紙面に使われている漢字全体の79.4%、1000種の漢字で93.9%を占めています(1966年三紙)。これは、1956年の雑誌に比べると4~5%高くなっていて、新聞で使われる漢字は、基本的な漢字が繰り返し使われるという傾向があり、常用漢字で98.5%をカバーしています(文献④)。一定量の漢字を学習すれば、おおむね読めるようになるというわけです。

1993年朝日で、1回しか現れなかったものに、日常生活で目にする「葱」「烹」「瑚」「釦」、ノートの表紙やコンピューターの画面などで見られる「野」、文学作品でみかける「倅」「噫」「吝」「慾」「嬾」「窄」「憊」などがあり、1回も出てこなかったものに、常用漢字の「朕」のほか「頗」「岨」「僻」「乍」「庖」などがありました。1999年読売では、常用漢字で出現しなかったのは「朕」「夕」でした。

頻度表を眺めると、そこに出ていることが不思議な文字もあることに気づきます。例えば、1999年読売には、JIS第2水準に入っているが用例の乏しい「駟」という字が1回現れたことになっています。これは、静岡東部・伊豆版の「よみうり文芸」に投稿された短歌に「包丁さばきも少し駟れたり」とたまたまあったもので、「駟」という字の誤植といえ、静岡県の特定の地方版でしか目に触れなかったものでした。このたぐいの誤植は、次の(3)にも見られます。

同-れはあつたもの
駟-だつた

1999年8月20日

『読売新聞』

静岡東部・伊豆版

3、3 字体の特徴

(1)新聞社による違い

新聞の題字には隷書で書かれている場合に、見慣れない字体も使われています。新聞の活字は、各社が独自に作っているケースが多いようです。そのため、社によって、字体の違いが見られます。「謹」「蹊」に至っては3種類も確認されています(文献⑤)。

「柝」は『読売新聞』などの字体ですが、『朝日新聞』などでは「柝」と社によって傍の第1面の形に違いが見られます。社による字体の違いは、以下の、特に(4)に顕著な現象です。一概に、新聞の字体といえないところがあります。

(2)常用漢字なのに旧字体

「癒」は、『読売新聞』の見出しに現れます(先の頻度表には見出しの漢字は入っていないそうです)。本文では新字体「癒」で、見出しが昔のままになっているためだそうです。本文でも、一般の文章に「龍」(竜)「燈」(灯)のような旧字体が出現します。

癒着疑惑

ことを巡って、職員と特定業者との癒着疑惑が持ち上が

橋さん。現在は、約七百時間かかる、約二疊分のカーペットを制作中だ。

朝日小学生新聞「海とさかな」コンクール事務局（03・3545・5225）へ。コンクールや自由研究に役立つガイドブック希望者は、はがきで同事務局へ。

(3) 常用漢字なのに異体字

普通の文章で、常用漢字を異体字で印刷した箇所がまれに見られます。これは、漢字変換を伴うワープロ入稿が増えたことによるもので、「JIS漢字」の影響を受けた現代的な誤植といえます。「事」(事)「疊」(疊)「達」(達)が、朝日1993年で確認されています。

1993年5月25日・1993年8月1日『朝日新聞』

(4) 表外字なのに新字体

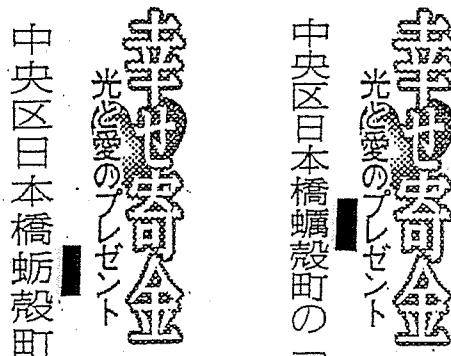
2000年12月に国語審議会から「表外漢字字体表」が答申され、表外漢字は原則としていわゆる康熙字典体(旧字体)で印刷するとの方針が示されましたが、新聞には例外が見られます(文献⑤)。

『朝日新聞』や一部の地方紙を例にとると、次のような略字も見られます。戦後の1951年岩田母型「新聞活字母型」に、こうした略字の早い例が見られます。

JIS漢字と同じに略している	洸	鷗	飴
JIS漢字よりは略していない	葛(葛)	搔(搔)	巷(巷)
JIS漢字よりも略している	詭(詭)	疔(癩)	舅(舅)

『読売新聞』を例にとると、見出しでは「温」と新字体、本文では「墨」の部分が旧字体「墨」になっているというケースがありました。

また、東京版では、「蛎」の旁が「枳」の旁となった異体字と旧字体「蠣」とが代わる代わる現れるコーナーがあります。



1999年12月1日・同2日『読売新聞』

(5) 異体字

人名、地名などの固有名詞には「澤」(沢)「國」(国)といった旧字体のほか、「圀」(国)「嶋」(島)「莖」(野)「曾」(曾)などの異体字が多く使われています。ことに叙

勲、死亡記事など、多くの人の名前が載りますが、それらを制限し、一般的な字体に改めて掲載することが多かったのですが、近年そうした統一が減ってきたようです。つまり、本人が主張する字体を、活字を作っても紙面に載せる傾向が現れています。

3、4 表記の特徴

(1) 常用漢字に沿う

語をどういふ文字で書き表すかという表記についても、常用漢字に沿うのが原則です。従って、「列車がこむ」の「こむ」は「混む」ではなく「込む」となっていることがほとんどです。なお、1966年三紙では、「混」の方が3回：1回で多くなっていました。

(2) 漢数字

新聞報道には、多くの数値情報が掲載されますが、縦書きなので漢数字が主流でしたが、近年、アラビア数字が使われることが増えてきました。先に挙げた各調査で第2位に「一」が入っているのも、近年の紙面では順位を下けている可能性があります。

(3) 略記

略語というか略記も、スペースを生かした新聞らしい工夫です。「英米」「印パ」「露」などはなじみが深いですが、「伯」「加州」のようにどこまで伝わっているかというものも見受けられます。「米」は、国名の米国（アメリカ）の意味で使われることが最も多く（1966年三紙）、食料の「こめ」は「コメ」と片仮名表記されることが多いようです。

(4) 交ぜ書きとルビ

新聞は、かねてより読者にとって読みやすい紙面を追求してきました。その結果、戦後、当用漢字でない漢字を仮名にした「交ぜ書き」が多数生まれました。常用漢字に加えられなかった漢字はそのままでした。「投函」は「投かん」、「晩餐会」は「晩さん会」、「砒素」は「ヒ素」とされたりしましたが、分かち書きがなされない日本語表記の中では、語の切れつながりが不明瞭となり、かえって読みづらいという意見が強くなりました。

入れられる。その
れ、事務所や
投函された手紙
はすでに郵便ポ
スト

2002年9月19日『朝日新聞』

読者にとっての読みやすさを追求するという新聞の目的に立ち返って、近年では「投函」と書いて「とうかん」とルビを振るようになってきました。「投函（とうかん）」のように括弧に読み仮名を入れる形式が多かったのですが、活字が大きくなったこともあり、ルビを振る形へと移ってきました。また、表外字であっても、中国、韓国などの固有名詞には、読み仮名を示さないという例も目にします。

大阪本社版

(5) 同音の常用漢字への書き換えと表外字のルビの省略

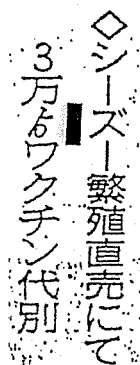
表外字を表内字に書き換えるのも、その一環です。「貫禄」が「貫録」と書かれているのを見かけますが、多くの一般的な国語辞典に載って定着していくかどうか、注目されず。

こうしたことと関連して、読みやすい漢字であれば、表外字であっても読み仮名を付けないという動きが『毎日新聞』から始まり、日本新聞協会での決定を経て、さらに各社で追加・変更が行われました。例えば、『京都新聞』では「檀家」「埴輪」「茶碗」「鶉飼」などの熟語で表外漢字が読み仮名なしで使われているように、地域の特色も現れています。

(6) 記号

記号にも、「々」（繰り返し符号）は行頭でも回避しないで使うといった新聞らしさがあります。これは、改行が多い字詰めのためでしょう。『毎日新聞』は、「毎日毎日」を「毎日々々」と表記している時期がありました。

なお、新聞の案内広告の欄には、不思議な文字が見られます。現代に残った合字ですが、読める人がどれくらいいるのでしょうか。



1998年8月1日『読売新聞』

4. おわりに

以上のように、新聞でどのような漢字が使われているかという調査は、様々な漢字使用の実態を明らかにする手がかりとなります。新聞で使われている漢字は、おおむね「常用漢字表」に沿ったものであるわけですが、現実にはたくさんの文字を運用するメディアとして、新聞固有の特徴や、各新聞社特有の特徴をもっていることが、各種の調査からうかがえました。

国立国語研究所では、新聞だけでなく、雑誌（1895年以降の総合雑誌、1956年と1994年の各種雑誌など）の漢字を含む文字についても実態調査を行っています。ふだんあまり意識することのない日本人自身の「文字生活」で、実際に流通してきた文字について、さまざまな面から明らかになるように研究を続けています。

文献

- ①国立国語研究所(1976)『現代新聞の漢字』(国立国語研究所報告56)
- ②横山詔一・笹原宏之・野崎浩成・エリク=ロング(1998)『新聞電子メディアの漢字 朝日新聞CD-ROMによる漢字頻度表』(国立国語研究所プロジェクト選書1 三省堂)
- ③文化庁文化政策課(2000)『漢字出現頻度数調査(2)』
- ④エリク=ロング・笹原宏之・横山詔一(1998)「漢字の規範分類別求めた平均頻度—新聞電子メディアを対象に一」計量国語学会
- ⑤比留間直和(2001)「新聞と表外漢字字体」『人文学と情報処理』31

漢字の質問あれこれ

山田貞雄^{やまだただお} (国立国語研究所 情報資料部門第二領域)

協力 読売テレビアナウンサー 道浦^{みちうら} 俊彦^{としひこ}氏

質問1 : サッカーでチームの中核になって活躍した選手について、「指令塔」という表現が見られました。「司令塔」とは違うのでしょうか？

○同音意義語

★文字と語、漢字本来の意味と用字・用法、時代の傾向・変化

質問2 : 「更迭」という語がしばしば取り上げられました。「更迭された」といういいかたは、どこかが違うような気がします。

○表外字、表外音訓

★時事の用語、聞きなれないことば、使いなれない漢字

質問3 : お祭でみこしを担ぎ最後に「はちあらい」をしました。漢字は「鉢洗い」でよいのでしょうか？

○専門用語(術語)、方言

★使い分け、使う場・使う人

質問4 : 「十本」は「ジッポン」、「10%」は「ジュッパースセント」でしょうか？

○漢字音、慣用音

★現状、読みによる意味の使い分け

質問5 : 「気持」と「気持ち」、テレビの字幕と新聞では違いました。なにか理由があるのでしょうか？

○送り仮名

★常用漢字表(音訓表)、送り仮名の付け方、新聞用語集、NHK用語辞典

質問6 : 中学生の子どもが「鳥観図」は間違いではないか、と聞きます。そうなんですか？

○表外字、書き換え

★書き取り、電子入力

質問7 : SMAPの草彥君の文字がメールで打てないんです。漢和辞典で部首は何ですか？

○固有名詞の漢字、表外字

★戸籍・住民票・運転免許・銀行取引

番外編1 : ポイントとパーセントとは違うものなんですか？

番外編2 : コンピューターですか、コンピュータですか？

番外編3 : 「おおほり」は「オーホリ」ですが、ローマ字で書くときはなにが一番正しいですか。

○外来語、カタカナ表記、ローマ字表記